

エコアクション21

# 環境活動レポート

**2017年度**

(2017年4月～2018年3月)



2018年6月22日作成

2018年9月10日改訂

株式会社ケムコ

## 目次

	頁
1. 組織の概要	2
2. 対象範囲	5
3. 用語	6
4. 環境方針	7
5. 環境目標	8
6. 環境活動計画	9
7. 環境目標の達成状況	9
8. 環境活動計画の取組結果とその評価, 次年度の取組内容	10
9. 新中長期環境目標 (2017 年度末見直し)	10
10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反, 訴訟等の有無	10
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	11
12. 図	12
13. 表	14

## 1. 組織の概要

### 1.1 事業所名及び代表者

株式会社ケムコ

代表取締役社長 平山正紀

### 1.2 所在地

〒314-0014

茨城県鹿嶋市大字光3番地

### 1.3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 鹿島事業部長 根本裕通

担当部署 : 総務部（環境委員会事務局）

環境管理担当者 : 各務彰悟

連絡先 : TEL 0299-84-3615 FAX 0299-83-8080

URL : <http://www.kemuco.co.jp>

### 1.4 事業の概要

創立 : 1986年8月1日

資本金 : 2,000万円

株主 : エア・ウォーター株式会社（100%）

株式 : 非上場

#### 事業活動

分析事業（環境計量証明業）、メンテナンス事業（機械等修理業）、出荷・請負業及び粉コークス・鋼板洗浄剤の製造販売業及びリサイクル仲介業

## 1.5 事業の規模

## 1) 活動規模

活動規模		2015年度	2016年度	2017年度
工事等の件数	(件)	1,152	1,039	1,088
全社売上高	(百万円)	963	981	917
従業員数	(人)	62	64	65
事務所及び作業場等面積				
事務所	(m <sup>2</sup> )	190	190	190
作業場	(m <sup>2</sup> )	1,386	1,386	1,386
平井寮	(m <sup>2</sup> )	3,026	3,026	3,026

## 2) 建設現場等の概要及び件数

<元請工事・業務等>

工事・業務等の名称	規模 (金額)	内容	環境配慮事項	使用建機等	公共 民間
研究所外壁全面塗装	1件 12百万円	仮設足場組払い 塗材塗付け	塗材による周辺への臭気	ユニック付トラック 高圧洗浄機	民間
第一試験棟消火栓配管整備	1件 6百万	消火栓配管整備	建設機械による騒音・振動	クレーン 溶接機等	民間
PCI窒素CE及び付属機器等の撤去	1件 4百万円	付属機器撤去工事	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ユニック付トラック エア・コンプレッサー	民間
製缶・配管工事	110件 32百万円	空調機更新 蒸気配管工事等	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ユニック付トラック 溶接機等	民間
機械・器具整備工事	248件 68百万円	機械据付 コンプレッサー補修工事等	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ユニック付トラック エア・コンプレッサー	民間
電気・消防工事	355件 45百万円	構内電気設備 消防設備設置工事等	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ユニック付トラック 高所作業車	民間
土木・建設工事	247件 63百万円	コンクリート打設 倉庫設置工事 外構工事等	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ダンプトラック バックホウ	民間

## ＜下請工事・業務等＞

工事・業務等の名称	規模 (金額)	内容	環境配慮事項	使用建機等	公共 民間
製缶・配管工事	10件 1百万円	空調機更新 給排水設備配管工事等	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ユニック付トラック 溶接機等	民間
機械・器具整備工事	18件 12百万円	機械据付 モーター据付	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ユニック付トラック エア・コンプレッサー	民間
電気・消防工事	61件 8百万円	構内電気設備 消防設備設置工事等	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ユニック付トラック 高所作業車	民間
土木・建設工事	36件 6百万円	コンクリート打設 足場仮設工事 外構工事等	建設機械による騒音・振動, 粉じん	ラフタークレーン ダンプトラック バックホウ	民間

## 2. 対象範囲

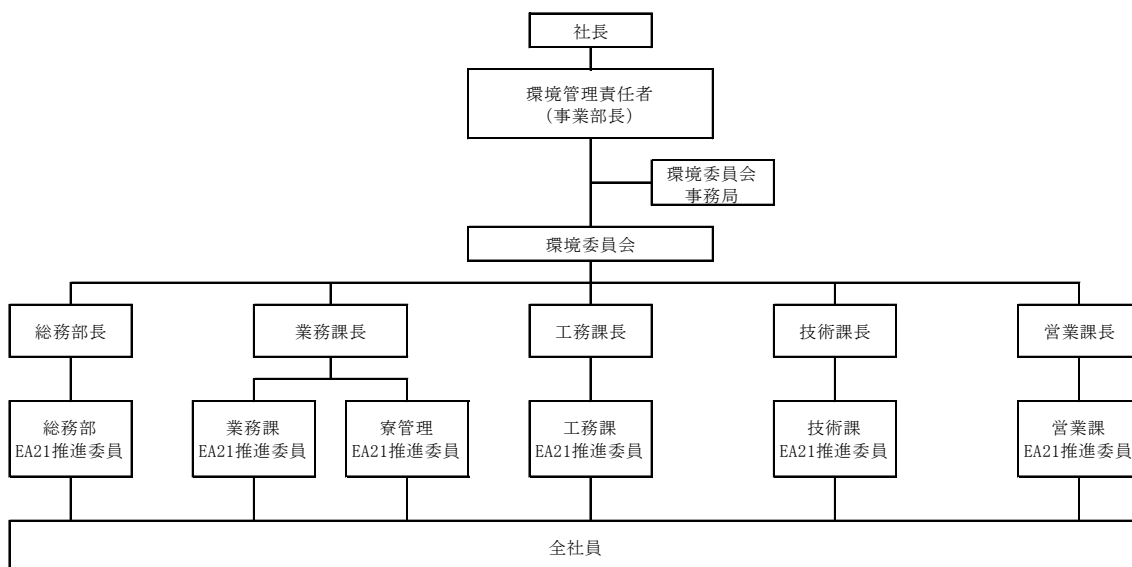
### 2.1 対象組織

全社、エア・ウォーター株式会社平井寮

### 2.2 対象活動

上記「1.4 事業の概要」の通り

### 2.3 EA21 実施体制（組織図）



エコアクション21実施体制図

<役割、責任及び権限>

- 1) 社長は、当社の業務を総理し、当社の環境活動の執行に関する最終の責任を有する。
- 2) 事業部長は、社長の指揮を受け、事業部の業務を掌理してその責に任ずる。
- 3) 課長は、事業部長の指揮を受け、課の業務を処理してその任に任ずる。
- 4) 環境管理責任者は、次に示す役割、責任及び権限を他の責任に関わり無く与えられる。
  - ・全社にわたる環境活動が確立され、実施され、かつ維持させることを確実にすること。
  - ・環境活動の改善、見直しの基礎として、環境活動の実績を収集、報告すること。
- 5) 環境委員会は、委員長を社長とし、年1回以上開催して環境活動に関する計画、実績の報告及び審議、承認を行う。
- 6) エコアクション21推進委員は、課長の指揮を受け、担当課、グループにおいて具体的な環境活動を推進する。

### 2.4 レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2017年4月～2018年3月

発行日：2018年6月22日

改訂日：2018年9月10日

### 3. 用語

環境活動レポートを読んでいただくための助けとして、本文に含まれているいくつかの用語について解説します。

用語	解説
環境分析試験	<p>水質汚濁防止法、大気汚染防止法等に基づいて、特定施設から排出される排水、ばい煙等に含まれる有害物質を測定し、環境基準に適合しているか調査する試験。</p> <p>環境分析試験が増加することは、公害の調査に当社が関与する機会が増加することになるので、環境保全に貢献できる。</p>
クリーンブラスト工法	<p>圧縮空気を用いてドライアイスの微粉末を高速で吹き付けることで表面の汚れを除去する工法。</p> <p>アルミナ等の吹き付け材を使用しないため、粉塵公害がおきない。また、ドライアイスはリサイクルされた二酸化炭素から製造するので、二酸化炭素の排出にはならない等、他の工法と比較して環境面で優れている。</p>
廃液からの塩化銀の回収	<p>環境分析試験における水質分析で硝酸銀を試薬として使用する分析項目がある。この分析の廃液をそのまま廃棄すれば銀が無駄になる。廃液に含まれる硝酸銀は塩化銀にすることで回収が可能となる。</p> <p>毎回実験終了後、発生した廃液は硝酸銀を塩化銀にする操作を行い、塩化銀を回収した後、廃棄する。回収した塩化銀はリサイクル業者に販売する。</p>

## 4. 環境方針

## 環境方針

### <基本理念>

株式会社ケムコは、事業活動のあらゆる分野において計り知れない恩恵を受けてきた自然や資源を大切にし、地域及び環境との共生・調和を図ります。

### <行動方針>

当社は、工事・メンテナンス事業や分析事業を始めとする多様な事業活動が、それぞれ環境に影響を与えていることを認識し、環境負荷の低減と、環境保全に貢献しうる事業の拡大を経営の優先課題と位置づけ、以下の方針を全ての従業員に周知し、もって全社員が参加して環境への取り組みを行います。また、啓発、教育活動を推進すると共に、地域社会の一員として地域・社会貢献活動を推進します。

1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大を目指します。
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善します。
3. 環境関連の法律や条令等を遵守します。

2013年9月1日  
株式会社ケムコ  
代表取締役社長

平山正紀



## 5. 環境目標

### 5-1. 中期環境目標の当初計画

2015年度までの中期目標の活動結果に基づいて、2016年から2018年度までの中期目標を表1のように設定しました（中期環境目標の当初計画）。

なお、ケムコでは、電力及び水使用量は寮を除き事務所所有者が管理しているため、これらを測定値として把握できません。そこで、電力及び水使用量は、寮以外の使用量については設備、機器、照明等の規格の合算値として推定し、これに寮の電力及び水使用量の測定値を合算して算出しました。

化学物質（PRTR法対象物質）は、当社では鋼板洗浄剤の原料として使用しているため削減することはむずかしいので、入出庫の記録に漏れないように管理することとしました。

### 5-2. 新中期環境目標（2016年度見直し）

2016年度の活動の結果、その実績から2017及び2018年度の目標を表2のように見直しました（新中期環境目標2016年度見直し）。

新中期目標の主な変更点は、①活発な事業活動により社用車によるガソリン使用量が増加していること、及び購入電力二酸化炭素排出係数（東京電力）を0.500 kg-CO<sub>2</sub>/kWh（2015年度）に変更したことから二酸化炭素排出量の目標を360 t-CO<sub>2</sub>にしたこと、②社用車の燃費改善を全社に適用し、実績を把握したこと、③硝酸銀を使用する試験が増加する見込みであることから廃液からの塩化銀の回収の目標を高く設定したことです。

### 5-3. 新中期環境目標（2017年度半期見直し）

2017年度10月の環境委員会において半期の実績を評価した結果、次の3点について年度目標を変更することとしました（新中期環境目標2017年半期見直し、表3）。

①総務部の社用車を更新したため、燃費が目標より大きく良好となったことから、目標燃費を12.0 km/Lから15.0 km/Lに変更しました。②硝酸銀を使用する試験が予想以上に増加したため、塩化銀の目標回収量を8.0 kg/年から12.0 kg/年に変更しました。③業務課のガソリン車を抹消したため、業務課の燃費改善活動は2017年度上期までの活動としました。

## 6. 環境活動計画

環境活動は1年を通して実施し、その活動の具体的な内容を表4に示しました。

## 7. 環境目標の達成状況

各課の車両ごとの燃費を図1~4に示しました。

2017年度の環境目標の達成状況を表5にまとめました。

環境目標の達成状況は、達成率が8割以上をA、6割以上をB、6割未満をCとし、達成状況A及びBを適合、達成状況Cを不適合としました。なお、燃費改善については、目標達成をA、目標未達成をCとし、目標達成は適合、目標未達成は不適合としました。

以上の結果、「1-2. クリーンブラスト工法実施の増加」、「2-2-1 廃液からの塩化銀の回収」及び「2-2-2 分析サンプルをリサイクルのために返却」では達成率がそれぞれ64%、77%及び76%で達成状況はBでした。燃費は、業務課では目標に達しましたがその他の課では目標に達せず達成状況はCでした。その他の項目については、達成率が90%以上で達成状況はすべてAでした。

「クリーンブラスト工法実施の増加」の達成率が64%であったのは、得意先の合理化で定期修繕の頻度が減少したものを、営業ワークを強化することによって他の受注先を増やす努力をしましたが、昨年度より1件多い受注に留まったためです。

「廃液からの塩化銀の回収」の達成率が77%であったのは、硝酸銀を使用する試験が上期に予想より増加したため、下期も同様の増加を見込みましたが、予想に反してあまり試験は増えませんでした。そのため、2017年度半期見直し(表3)の目標値(12.0kg/年)に対して77%でした。

「分析サンプルをリサイクルのために返却」の達成率は76%でした。その理由を次に示します。試験数に大きな変化がないことから発生する分析済みサンプルの量にも大きな差はないと考えられます。調査の結果、分析済みサンプルを産業廃棄物として処理したり、不法投棄はしていませんでした。達成率が少し低かった理由は、通常、回収用ドラム缶の容量を満タンにすることはないことから、ドラム缶1本当たりへ回収したサンプル量が今年度は例年と比較してたまたま多くなり、リサイクルしたサンプルの量には変化はないがドラム缶の本数は減少したものと考えられました。

燃費は、業務課以外の課では目標に達しませんでした。そのため、次年度はさらに全社でエコ運転を推進することとしました。また、ほとんどの社用車は1年間で燃費の増減に一定の傾向は認められませんでした。技術課の「水戸580の9539」と「水戸400な1005」については、燃費が減少する傾向が認められました。これらの2台については以前から老朽化が激しいことが分かっていたので、2018年度に新しい車両に更新することとしました。このことから、社用車の燃費改善についての活動は、単にガソリンの使用量を少なくするだけではなく車両の更新についての判断にも役立つことが分かりました。

二酸化炭素排出量は、目標の360 t-CO<sub>2</sub>に対して15 t-CO<sub>2</sub>増加しました。主な要因は、営業等の活発な事業活動でガソリン使用量が増加したこと、並びに平井寮の購入電力及び化石燃料使用量が増加したことによるものでした。

水資源投入量は、目標の4600 m<sup>3</sup>に対して443 m<sup>3</sup>増加しました。主な要因は、平井寮で

の水使用量が増加したことでした。

## 8. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### 1) 環境活動計画の取組結果

環境活動計画の年間を通しての実施状況を表6にまとめました。

### 2) 環境目標の実績及び環境活動計画の取組結果の評価ならびに次年度の取組内容

2017年度の環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況について表7のように評価しました。また、今年度の評価を基に次年度の取組内容を定めました。

## 9. 新中長期環境目標（2017年度末見直し）

2017年度の実績から2018年度の目標を表8のように見直しました。

2017年度末に新たに見直した目標は、「廃液からの塩化銀の回収」です。見直しの内容は、2017年度上期の実績が予想以上に好調であったことから、2017年度及び2018年度の目標を上方修正しましたが、塩化銀の回収が好調であったのは一時的なもので継続しないことが判明したため、2016年度見直しの新中期環境目標に戻しました。その他の目標は表3に示した新中期環境目標（2017年度半期見直し）と同様です。

## 10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反及び訴訟はありません。また、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

適用される法規制等と遵守状況は環境関連法規等の遵守状況のチェック結果に基づいて記載しました。

法規制の名称	具体的取り組み事項	遵守状況
1. 環境一般 ・環境基本法 ・地球温暖化対策の推進に関する法律 ・人の健康に係る公害犯罪の処罰に関する法律	目的を理解し、事業活動に反映させる	○
2. 水質汚濁・海洋汚染 ・海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律 ・港則法 ・船舶安全法 ・水質汚濁防止法	・海上輸送のための容器及びラベルの管理 ・岸壁荷役時の港湾水質汚濁防止 ・船舶の安全のための容器の使用基準 ・公共水域への水質汚濁物質の排出防止	○
3. 廃棄物・リサイクル ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ・建設リサイクル法	・産業廃棄物の排出管理 ・建設副産物の管理 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	○

4. 化学物質・危険物 ・毒物及び劇物取締法 ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の促進に関する法律 ・消防法	・鋼板洗浄剤製造における化学物質の管理 ・鋼板洗浄剤製造における特定化学物質の管理 ・CDQ 粉コークスの防火管理	○
5. 地域協定・条例等	・茨城県地下水採取の適正化に関する条例	○
6. エア・ウォーター株式会社ケミカルカンパニーとの業務協定書, 環境マネジメント覚書	出荷請負業務の基準	○
7. フロン排出抑制法	コンプレッサの簡易点検	○
8. その他 ・計量法 ・作業環境測定規則 ・放射性同位元素による放射線障害防止に関する法律	・水質, 大気, 騒音, 振動の計量証明事業の管理 ・労働安全衛生法に基づく作業環境測定の管理 ・ECD ガスクロマトグラフの管理	○

#### 11. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション 21 の活動は、それ自体が業務の一部となるように工夫して取り組んでもらっている。業務の一部ということは、この活動が直接業績にも繋がって行くので会社にとっても重要な活動である。環境推進委員の仕事は、数字を集計して報告するだけではなく、エコアクション 21 という活動の取り組みを工夫してそれぞれの課員に働きかけることでもあるので、そのことを理解して活動して欲しい。環境目標達成のために最も障害となるのはマンネリ化だと考えるので、各環境推進委員は常にフレッシュな気持ちで活動をリードして行って欲しい。

本年度は、2015 年度の結果を基に策定した 2016～2018 年度中期環境目標の 2 年目に当り、その活動結果と最終年度である次年度の活動計画を報告していただいた。活動する中で状況が変化したものは積極的に目標を上方修正してチャレンジしてくれた。結果については満足いくものではなかったようだがその姿勢は十分に評価できる。

中期環境目標の最終年度である次年度は、これまで達成できていなかった目標は必ず達成することを目指し、既に達成している目標は継続して達成できる様に活動して 3 年間のまとめの年度として欲しい。

環境システム自体については特に問題はないと判断し、現状のまま継続して欲しい。

代表取締役社長 平山正紀

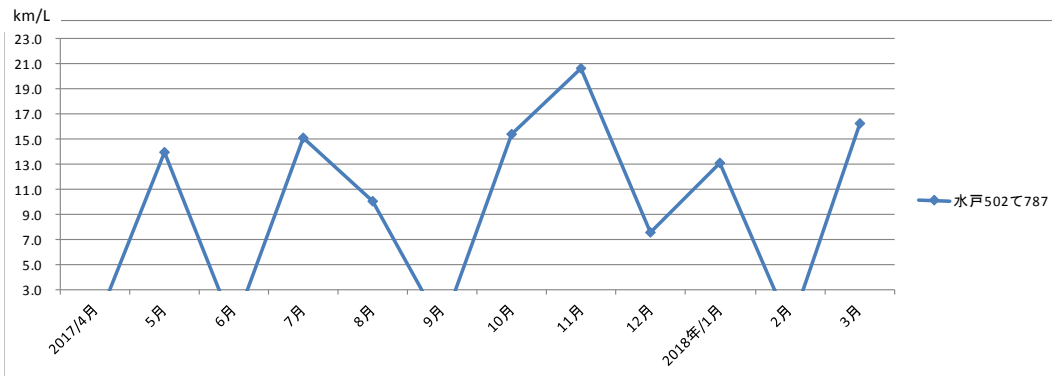


図1 車両燃費推移(総務部)

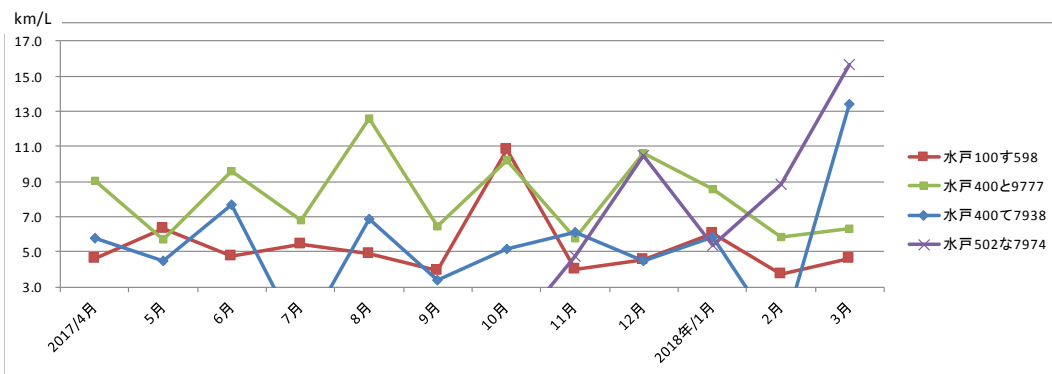
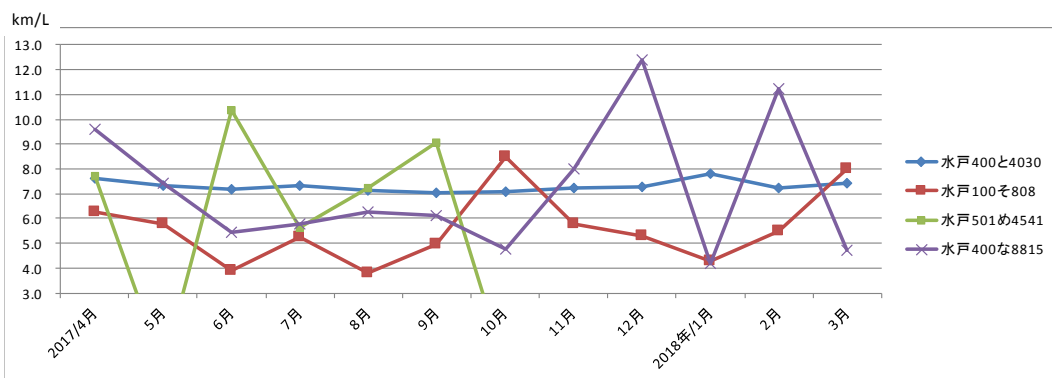


図2 車両燃費推移(工務課)

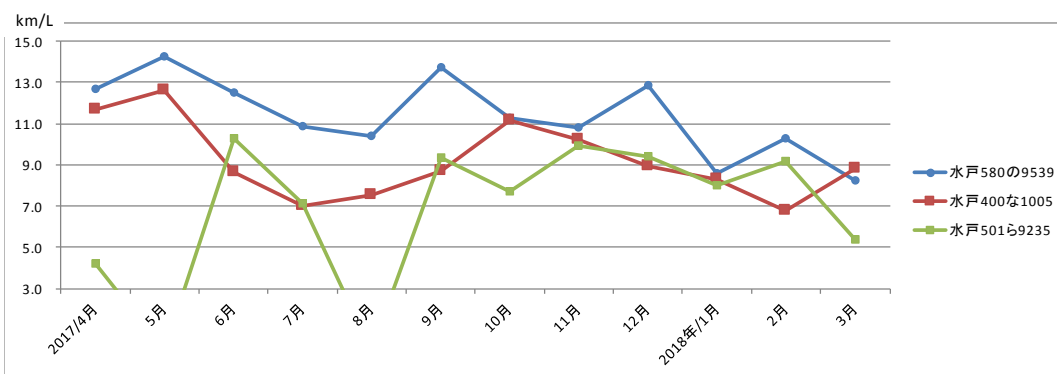
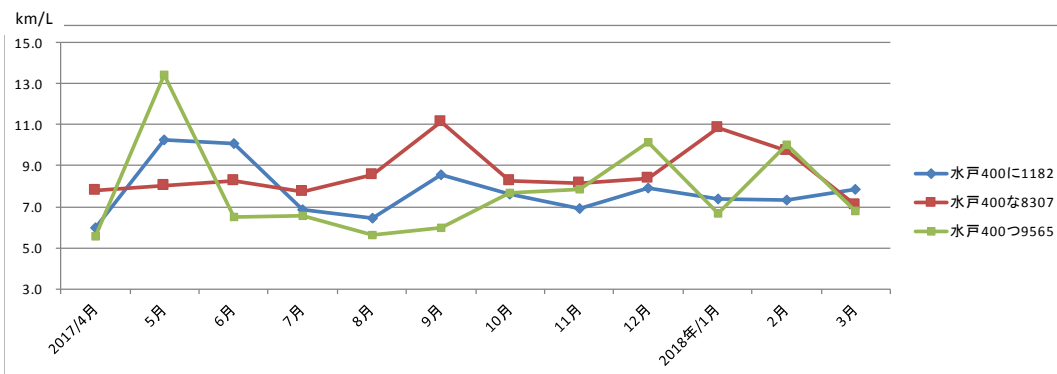


図3 車両燃費推移(技術課)

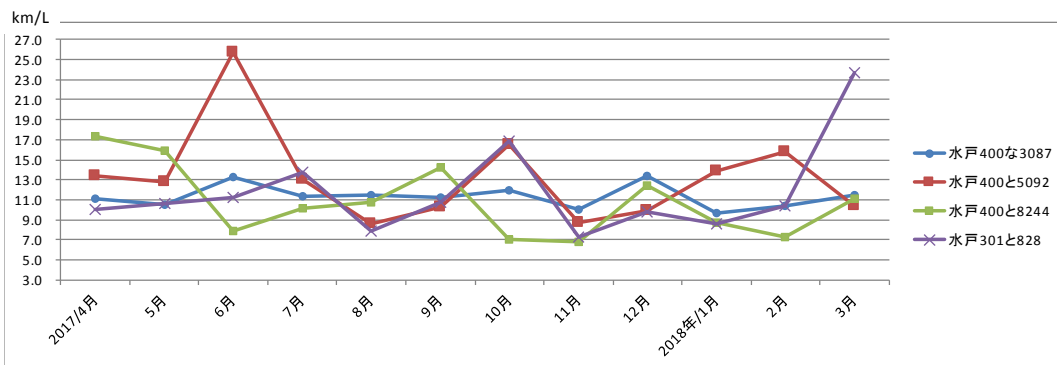
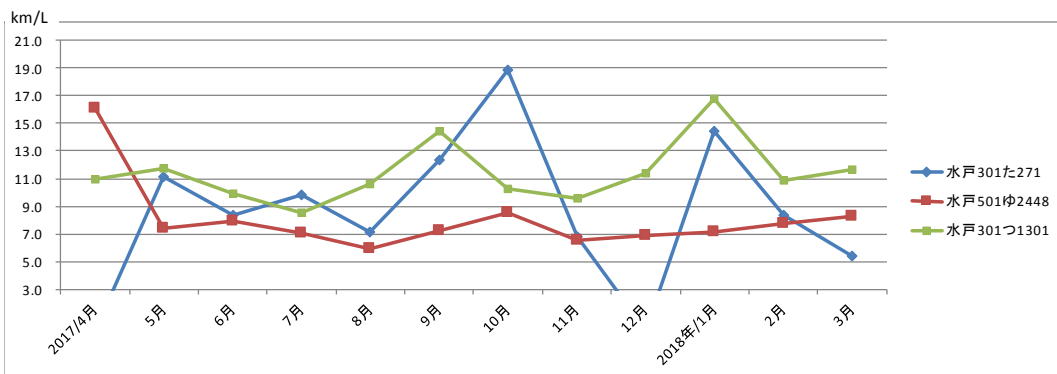


図4 車両燃費推移(営業課)

表1 中期環境目標の当初計画

環境方針	環境目標					
	内容	担当部署	2015年度 実績 (基準年度)	2016年度 目標	2017年度 目標	2018年度 目標 (中長期目標年度)
1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	114百万円	120百万円	125百万円	130百万円
		技術課	1960件	2000件	2080件	2160件
	1-2. クリーンプラスト工法実施の増加	工務課	8件	10件	11件	12件
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減*1					
	1) 全社の電力、燃料使用量削減	全社	366 t-CO <sub>2</sub>	350 t-CO <sub>2</sub>	350 t-CO <sub>2</sub>	350 t-CO <sub>2</sub>
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車：1台	総務部	—	実績把握	2016年度実績の1%改善	2016年度実績の2%改善
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車：1台	業務課	—	実績把握	2016年度実績の1%改善	2016年度実績の2%改善
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車：6台 ディーゼル車：2台	工務課	7.5 km/L	7.6 km/L	7.7 km/L	7.8 km/L
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車：6台	技術課	—	実績把握	2016年度実績の1%改善	2016年度実績の2%改善
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車：6台	営業課	10.6 km/L	10.7 km/L	10.8 km/L	10.9 km/L
	2-2. 産業廃棄物の低減					
1) 廃液から塩化銀の回収	技術課	6.28 kg/年	6.5 kg/年	6.8 kg/年	7 kg/年	

次頁へ続く

表1 中期環境目標の当初計画

前頁から続く

環境方針	環境目標					
	内容	担当部署	2015年度 実績 (基準年度)	2016年度 目標	2017年度 目標	2018年度 目標 (中長期目標年度)
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	ドラム缶にして17本	ドラム缶にして17本	ドラム缶にして17本	ドラム缶にして17本
	3) 硫安のリサイクル	業務課	8,800 t	8,500 t	8,500 t	8,500 t
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	0件	3件以下	3件以下	3件以下
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	4本	3本以下	3本以下	3本以下
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	4,626 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進（グリーン化率*3の拡大）	総務部	43.2%	45%	48%	50%
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	78 kg回収	79 kg回収	80 kg回収	81 kg回収
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	9月, 3月の2回実施	年1回実施	年1回実施	年1回実施
	3-2. PRTR法対象物質の適正管理（「化学物質使用量削減」に該当）	営業課	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認	毎月出入管理表により数量確認	毎月出入管理表により数量確認

\*1：購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.500kg-CO<sub>2</sub>/kWh（2015年度）を使用した。

二酸化炭素排出量削減（電気使用量削減）の電気使用量は推定使用量とした。

\*2：水資源投入量削減の水資源使用量は推定使用量を記載

\*3：グリーン化率（%）＝グリーン商品購入品目/全購入品目×100



表2 新中期環境目標 (2016年度見直し)

環境方針	環境目標						
	内容	担当部署	2015年度 実績(基準年度)	2016年度 目標	2016年度 実績	2017年度 目標	2018年度目標 (中長期目標年度)
1. 環境保全に貢献しうる事業の 拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	114百万円	120百万円	112百万円	125百万円以上	130百万円以上
		技術課	1,960件	2000件	1,948件	2,080件以上	2,160件以上
	1-2. クリーンプラスト工法実施の増加	工務課	8件	10件	6件	11件以上	12件以上
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減 <sup>*1</sup>						
	1) 全社の電力, 燃料使用量削減	全社	366 t-CO <sub>2</sub>	350 t-CO <sub>2</sub>	370 t-CO <sub>2</sub>	360 t-CO <sub>2</sub> <sup>*4</sup>	360 t-CO <sub>2</sub> <sup>*4</sup>
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車: 1台	総務部	—	実績把握	11.9 km/L	2016年度実績の 1%改善 (12.0 km/L)	2016年度実績の 2%改善 (12.1 km/h)
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車: 1台	業務課	—	実績把握	6.9 km/L	2016年度実績の 1%改善 (7.0 km/L)	2016年度実績の 2%改善 (7.0 km/L)
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車: 7台 ディーゼル車: 1台	工務課	7.5 km/L	7.6 km/L	6.8 km/L	2016年度実績の 1%改善 (6.9 km/L) <sup>*4</sup>	2016年度実績の 2%改善 (6.9 km/L) <sup>*4</sup>
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車: 6台	技術課	—	実績把握	9.5 km/L	2016年度実績の 1%改善 (9.6 km/L)	2016年度実績の 2%改善 (9.7 km/L)
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車: 6台	営業課	10.6 km/L	10.7 km/L	10.4 km/L	2016年度実績の 1%改善 (10.5 km/L) <sup>*4</sup>	2016年度実績の 2%改善 (10.6 km/L) <sup>*4</sup>
	2-2. 産業廃棄物の低減						
1) 廃液から塩化銀の回収	技術課	6.28 kg/年	6.5 kg/年	7.5 kg/年	8 kg/年 <sup>*4</sup>	8.1 kg/年 <sup>*4</sup>	

次頁へ続く

表2 新中期環境目標 (2016年度見直し)

前頁から続く

環境方針	環境目標						
	内容	担当部署	2015年度 実績(基準年度)	2016年度 目標	2016年度 実績	2017年度 目標	2018年度目標 (中長期目標年度)
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	ドラム缶にして 17本	ドラム缶にして 17本	ドラム缶にして 15本	ドラム缶にして 17本	ドラム缶にして 17本
	3) 硫安のリサイクル	業務課	8,800 t	8,500 t	8,300 t	8,500 t	8,500 t
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	0件	3件以下	1件	3件以下	3件以下
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	4本	3本以下	0本	3本以下	3本以下
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	4,626 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>	5,043 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率*3の拡大)	総務部	43.2%	45%	48.6%	48%	50%
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	78 kg回収	79 kg回収	75 kg回収	80 kg回収	81 kg回収
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	9月, 3月の2回実施	年1回実施	3月実施した	年1回実施	年1回実施
	3-2. PRTR法対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当)	営業課	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認	毎月出入管理表により数量確認

\*1: 二酸化炭素排出量削減 (電気使用量削減) の電気使用量は推定使用量とした。  
 購入電力二酸化炭素排出係数は, 東京電力0.500kg-CO<sub>2</sub>/kWh (2015年度) を使用した。  
 \*2: 水資源投入量削減の水資源使用量は推定使用量を記載  
 \*3: グリーン化率 (%) = グリーン商品購入品目/全購入品目 × 100  
 \*4: 2016年度実績を基に目標を見直した。

表3 新中期環境目標 (2017年度半期見直し)

環境方針	環境目標						
	内容	担当部署	2015年度 実績(基準年度)	2016年度 実績	2017年度 半期実績	2017年度 目標	2018年度目標 (中長期目標年度)
1. 環境保全に貢献しうる事業の 拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	114百万円	112百万円	50百万円/半年	125百万円以上	130百万円以上
		技術課	1,960件	1,948件	977件/半年	2,080件以上	2,160件以上
	1-2. クリーンプラスト工法実施の増加	工務課	8件	6件	4件/半年	11件以上	12件以上
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減 <sup>*1</sup>						
	1) 全社の電力, 燃料使用量削減	全社	366 t-CO <sub>2</sub>	370 t-CO <sub>2</sub>	186 t-CO <sub>2</sub> /半年	360 t-CO <sub>2</sub>	360 t-CO <sub>2</sub>
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車: 1台	総務部	—	11.9 km/L	16.4 km/L	15.0 km/L (2017年度半期見直し)	15.2 km/L
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車: 1台	業務課	—	6.9 km/L	7.4 km/L	7.0 km/L	車両抹消のため 計画外
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車: 7台 ディーゼル車: 1台	工務課	7.5 km/L	6.8 km/L	6.4 km/L	6.9 km/L	6.9 km/L
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車: 6台	技術課	—	9.5 km/L	8.6 km/L	9.6 km/L	9.7 km/L
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車: 6台	営業課	10.6 km/L	10.4 km/L	10.2 km/L	10.5 km/L	10.6 km/L
	2-2. 産業廃棄物の低減						
1) 廃液から塩化銀の回収	技術課	6.28 kg/年	7.5 kg/年	6.0 kg/半年	12.0 kg/年 (2017年度半期見直し)	12.2 kg/年	

次頁に続く

表3 新中期環境目標（2017年度半期見直し）

前頁から続く

環境方針	環境目標						
	内容	担当部署	2015年度 実績(基準年度)	2016年度 実績	2017年度 半期実績	2017年度 目標	2018年度目標 (中長期目標年度)
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	ドラム缶にして 17本	ドラム缶にして 15本	ドラム缶にして 7本/半年	ドラム缶にして 17本	ドラム缶にして 17本
	3) 硫安のリサイクル	業務課	8,800 t	8,300 t	4,300 t/半年	8,500 t	8,500 t
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	0件	1件	0件/半年	3件以下	3件以下
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	4本	0本	0本/半年	3本以下	3本以下
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	4,626 m <sup>3</sup>	5,043 m <sup>3</sup>	2,829 m <sup>3</sup> /半年	4,600 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進(グリーン化率*3の拡大)	総務部	43.2%	48.6%	58.4%	48%	50%
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	78 kg回収	75 kg回収	45 kg回収/半年	80 kg回収	81 kg回収
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	9月, 3月の2回実施	3月実施した	3月実施予定	年1回実施	年1回実施
	3-2. PRTR対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当)	営業課	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認	毎月出入管理表により数量確認	毎月出入管理表により数量確認

\*1: 二酸化炭素排出量削減(電気使用量削減)の電気使用量は推定使用量とした。  
 購入電力二酸化炭素排出係数は, 東京電力0.500kg-CO<sub>2</sub>/kWh(2015年度)を使用した。  
 \*2: 水資源投入量削減の水資源使用量は推定使用量を記載  
 \*3: グリーン化率(%) = グリーン商品購入品目/全購入品目 × 100

表4 環境活動計画

環境方針	環境目標		環境活動計画 (具体的な内容)
	内容	担当部署	
1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	・各担当者の横の連絡による新規顧客・案件の可能性発掘に努める。
		技術課	・分析待ちの仕掛かりが放置されていないかを確認し、計量証明書のチェックに手間取らないための改善を積み重ね、迅速な発行を目指す。
	1-2. クリーンプラスト工法実施の増加	工務課	中央電気工業での作業が1回/月から1回/2～3月と減少となった為、AWI保全への営業を働きかけ作業実績を作る。
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減 <sup>*1</sup>		
	1) 全社の電力、燃料使用量削減	全社	・各課でそれぞれ燃費向上を含めた活動内容を決定し、計画を作成する。 ・寮生に対してエコ活動のPRを行い、節電意識を向上させる。
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車：1台	総務部	エコ運転を徹底し、社用車の燃費改善に取り組む。
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車：1台	業務課	急発進やアイドリングストップに気をつけ、社用車の燃費改善に取り組む。
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車：7台 ディーゼル車：1台	工務課	・荷台に不要物は積まない。 ・アイドリングストップに心がける。
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車：6台	技術課	・エコドライブに努め、社用車の燃費改善に取り組む。
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車：6台	営業課	・エコ運転の徹底 ・不要な加減速をしない ・急発進をしない ・減速時は早めにアクセルoff
	2-2. 産業廃棄物の低減		
1) 廃液から塩化銀の回収	技術課	・銀を含む廃液量が増加する見通しなので、処理作業をこれまでどおり丁寧に継続する。 ・回収した塩化銀固体をきちんと保管する。	

次頁へ続く

表4 環境活動計画

前頁から続く

環境方針	環境目標		環境活動計画 (具体的な内容)
	内容	担当部署	
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	・タール分析サンプルは実験室内に放置しないで, こまめに廃油ドラムに回収する。
	3) 硫安のリサイクル	業務課	・不良品を溶かしリサイクル
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	・ドラム運搬時フォークリフトの運転に注意する ・ドラム原料仕込み後の運搬に注意する
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	・今年度は2本のホース交換を予定しているため, 破損による交換は1本以下にとどめる ・フレキのジョイント上下定期的組み換え (3ヶ月に一回)
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	・各課でそれぞれ活動内容を決定し, 計画を作成する。 ・寮生に対してエコ活動のPRを行い, 節水意識を向上させる。
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率*3の拡大)	総務部	・事務用品発注時購入リスト ・適切な商品選択
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	各課でそれぞれ活動内容を決定し, 計画を作成する。
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	・ホームページ等で法律などが変わっていないかどうか確認し, 各部署へ遵守状況を確認する
	3-2. PRTR法対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当)	営業課	・毎月出入管理表により数量確認し, 現状維持。

表5 環境目標の達成状況

環境方針	環境目標の達成状況					
	内容	担当部署	2017年度 目標	2017年度 実績	達成率 (%)	達成状況
1. 環境保全に貢献しうる事業の 拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	125百万円以上	120百万円	96%	A
		技術課	2,080件以上	1,971件	95%	A
	1-2. クリーンプラスト工法実施 の増加	工務課	11件以上	7件	64%	B
2. 省資源、省エネルギー、廃棄 物の減量化、リサイクルをより推 進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減*1					
	1) 全社の電力、燃料使用量削減	全社	360 t-CO <sub>2</sub>	375 t-CO <sub>2</sub> (15 t-CO <sub>2</sub> 増加)	96%	A
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車：1台	総務部	15.0 km/L	13.9 km/L	93%	C
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車：1台	業務課	7.0 km/L	7.4 km/L	106%	A
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車：7台 ディーゼル車：1台	工務課	6.9 km/L	6.2 km/L	90%	C
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車：6台	技術課	9.6 km/L	8.7 km/L	91%	C
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車：6台	営業課	10.5 km/L	10.3 km/L	98%	C
	2-2. 産業廃棄物の低減					
1) 廃液から塩化銀の回収	技術課	12.0 kg/年	9.2 kg/年	77%	B	

表5 環境目標の達成状況

前頁から続く

環境方針	環境目標の達成状況					
	内容	担当部署	2017年度 目標	2017年度 実績	達成率 (%)	達成状況
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	ドラム缶にして17本	13本	76%	B
	3) 硫安のリサイクル	業務課	8,500t	8,500t	100%	A
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	3件以下	0件	100%	A
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	3本以下	0本	100%	A
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	4,600m <sup>3</sup>	5,482m <sup>3</sup> (882m <sup>3</sup> 増加)	85%	A
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率*3の拡大)	総務部	48%	53.7%	112%	A
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	80kg回収	78kg回収	98%	A
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	年1回実施	2018年3月実施	100%	A
	3-2. PRTR法対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当)	営業課	毎月出入管理表により数量確認	実施済み	100%	A

\*1: 二酸化炭素排出量削減 (電気使用量削減) の電気使用量は推定量とした。

購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.500kg-CO2/kWh(2015年度)を使用した。

\*2: 水資源投入量削減の水資源使用量は推定使用量を記載した。

\*3: グリーン化率 (%) = グリーン商品購入品目 / 全購入品目 × 100

達成状況A: 達成率8割以上 (適合), 達成状況B: 達成率6割以上 (適合), 達成状況C: 達成率6割未満 (不適合)

燃費改善の評価は次の通りとする → 達成状況A: 目標達成 (適合), 達成状況C: 目標未達成 (不適合)



表6 環境活動計画実施状況

環境方針	環境目標		環境活動計画 (具体的な内容)	実施状況			
	内容	担当部署					
1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	各担当者の横の連絡による新規顧客・案件の可能性発掘に努める。	担当者間での打合せを密に行い、年間を通じて積極的に営業活動を行った。			
		技術課	分析待ちの仕掛かりが放置されていないかを確認し、計量証明書のチェックに手間取らないための改善を積み重ね、迅速な発行を目指す。	分析済み試料の分別によってサンプル管理を徹底した。また、報告書のチェック期間の短縮に努めた。			
	1-2. クリーンプラスト工法実施の増加	工務課	中央電気工業での作業が1回/月から1回/2~3月と減少となった為、AWI保全への営業を働きかけ作業実績を作る。	AWI保全へのアピールを強力に行い、2件の仕事を頂いた。			
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減 <sup>*1</sup>	全社	・各課でそれぞれ燃費向上を含めた活動内容を決定し、計画を作成する。 ・寮生に対してエコ活動のPRを行い、節電意識を向上させる。	・燃費向上は朝会でのエコ活動唱和でアピールした。 ・節電はスイッチの近くに節電シールを貼付してアピールした。			
	1) 全社の電力、燃料使用量削減						
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車：1台				総務部	エコ運転を徹底し、社用車の燃費改善に取り組む。	エコ運転に心がけた。
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車：1台				業務課	急発進やアイドリングストップに気をつけ、社用車の燃費改善に取り組む。	急発進に気をつけて運転した。 下期に車両を廃却した。
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車：6台 ディーゼル車：2台				工務課	・荷台に不要物は積まない。 ・アイドリングストップに心がける。	定期的に荷台の整理を行った。
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車：6台				技術課	・エコドライブに努め、社用車の燃費改善に取り組む。	現状把握に努めた。
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車：6台				営業課	・エコ運転の徹底 ・不要な加減速をしない ・急発進をしない ・減速時は早めにアクセルoff	以下のようなエコ運転に努めた。 ・不要な加減速をしない ・急発進をしない ・減速時は早めにアクセルoff
	2-2. 産業廃棄物の低減				技術課	・銀を含む廃液量が増加する見通しなので、処理作業をこれまでどおり丁寧に継続する。 ・回収した塩化銀固体をきちんと保管する。	習慣化して回収し、保管場所を定めて確実に行った。
1) 廃液から塩化銀の回収							

表6 環境活動計画実施状況

前頁から続く

環境方針	環境目標		環境活動計画 (具体的な内容)	実施状況
	内容	担当部署		
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	・タール分析サンプルは実験室内に放置しないで, こまめに廃油ドラムに回収する。	習慣化して行った。
	3) 硫安のリサイクル	業務課	・不良品を溶かしリサイクル	スケジュールに従って毎日行った。
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	・ドラム運搬時フォークリフトの運転に注意する ・ドラム原料仕込み後の運搬に注意する	路面状態が悪い場所は慎重に運転した。
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	・今年度は2本のホース交換を予定しているため, 破損による交換は1本以下にとどめる ・フレキのジョイント上下定期的組み換え(3ヶ月に一回)	当初の計画通り定期的に行った。
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	・各課でそれぞれ活動内容を決定し, 計画を作成する。 ・寮生に対してエコ活動のPRを行い, 節水意識を向上させる。	各課で節水シール等で節水をアピールした。
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率*3の拡大)	総務部	・事務用品発注時購入リスト ・適切な商品選択	購入リストを作成し, 発注時に適切な商品選択を行って発注するようにした。
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	各課でそれぞれ活動内容を決定し, 計画を作成する。	ペットボトルの分別を確実にを行い, 資源として取扱うように習慣付けた。
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	・ホームページ等で法律などが変わっていないかどうか確認し, 各部署へ遵守状況を確認する	年1回, 各部署の遵守状況を確認した。
	3-2. PRTR法対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当)	営業課	・毎月出入管理表により数量確認し, 現状維持。	毎月必ず出入管理表を作成した。

表7 環境目標の実績および環境活動計画の取組結果の評価ならびに次年度の取組内容

環境方針	内容	担当部署	評価ならびに次年度の取組内容
1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	活動計画通り営業活動を行った結果、通年で120百万円の売上を上げた。次年度も積極的に営業活動する。
		技術課	通年で1971件の環境分析試験を行うことができた(達成率95%) 2018年度も試験件数を増加できるよう活動を続ける。計量証明書を迅速に発行できるように計量証明書発行システムの導入を検討する。
	1-2. クリーンプラスト工法実施の増加	工務課	中電ブロワー5回、Cガスブロワー2回で合計7回実施した。次年度は、工事件数を増やせるよう活動する。
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減*1		
	1) 全社の電力、燃料使用量削減	全社	通年で375 t-CO <sub>2</sub> 排出し、目標に対して15 t-CO <sub>2</sub> 多かった。主な要因は営業等の活発な事業活動でガソリン使用量が増加したこと、並びに平井寮の購入電力及び化石燃料使用量が増加したことであった。達成状況はAであったため達成度合いは充分であった。次年度は、平井寮の購入電力及び化石燃料使用量に注目して活動して行く。
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車：1台	総務部	エコ運転に気をつけて活動していたが、通年13.9km/Lの実績であり、目標未達となってしまう。次年度は、燃費目標を変更して、エコ運転を心がけながら、燃費改善に努める。
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車：1台	業務課	アイドリングストップや急加速に注意して運転し、目標を達成した。この車両は6月末までで構内専用車両になったため、燃費改善対象車両外となった。
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車：7台 ディーゼル車：1台	工務課	エコ運転を心がけていたが、目標未達となった。次年度は不要荷物を整理し、エコ運転に努めることで燃費改善に努める。
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車：6台	技術課	2018年度は構内のサンプリングが多かったため8.7km/L(達成率91%)となり目標未達となった。2018年度は低燃費運転に努め、目標達成にチャレンジする。
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車：6台	営業課	2017年度平均燃費は、10.3km/Lで目標に達しなかった。次年度もアイドリングストップや急発進、構内移動に単車を使用するなど注意して運転する。
	2-2. 産業廃棄物の低減		
1) 廃液から塩化銀の回収	技術課	試薬廃液から塩化銀は9.2kg回収できた。下期のIPP2分析から発生する塩化銀の量が少なかったため目標達成率は77%であった。今年度はIPP2の塩化銀を多めに見積もり、目標を設定した経緯があるため、次年度は目標値を変更して引き続き回収を行う。	

表7 環境目標の実績および環境活動計画の取組結果の評価ならびに次年度の取組内容

前頁から続く

環境方針	内容	担当部署	評価ならびに次年度の取組内容
2. 省資源, 省エネルギー, 廃棄物の減量化, リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	分析サンプルはドラム缶13本であり, すべて返却した。 次年度も分析サンプルすべて返却できるよう活動を実施する。
	3) 硫安のリサイクル	業務課	エア・ウォーターの計画通りに実施しリサイクルをすることが出来た。 不良品を溶かして可能な限りリサイクルを行った。このまま続けて作業していく。
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	今年度ドラム缶損傷ゼロを達成することが出来た。次年度もドラム缶損傷ゼロを目指して維持継続する。
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	ホース両端を配管と短管に接続出来る様にし定期的に接続箇所を交換することで熱の負荷を軽減でき長期にわたり使用できた。次年度も様子を見ながら作業進めていく。
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	こまめな節水等を行っていたが, 平井寮水使用量が増加してしまった。平井寮に漏水箇所が確認されなかった為, 寮生の水使用量が増加したと思われる。 節水PR等に努め, 下期目標達成を目指して活動を続ける。
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率*3の拡大)	総務部	購入リストに基づき購入した結果, グリーン化率は通年で53.7%であった。次年度も活動を継続する。
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	ペットボトル78kgを回収し, リサイクル実施した。次年度も活動を行う。
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	2018年3月に遵守状況の確認を行った。次年度も活動継続する。
	3-2. PRTR法対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当)	営業課	活動計画に従って月末棚卸しで出入管理表作成を実施している。次年度も継続する。

表8 新中期環境目標（2017年度末見直し）

環境方針	環境目標						
	内容	担当部署	2015年度実績(基準年度)	2016年度実績	2017年度目標	2017年度実績	2018年度目標(中長期目標年度)
1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大	1-1. 環境分析試験件数の増加	営業課	114百万円	112百万円	125百万円以上	120百万円	130百万円以上
		技術課	1,960件	1,948件	2,080件以上	1,971件	2,160件以上
	1-2. クリーンプラスト工法実施の増加	工務課	8件	6件	11件以上	7件	12件以上
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2-1. 二酸化炭素排出量削減 <sup>*1</sup>						
	1) 全社の電力、燃料使用量削減	全社	366 t-CO <sub>2</sub>	370 t-CO <sub>2</sub>	360 t-CO <sub>2</sub>	375 t-CO <sub>2</sub>	360 t-CO <sub>2</sub> (2016年度見直し)
	2) 総務部燃費改善 ガソリン車：1台	総務部	—	11.9 km/L	15.0 km/L	13.9 km/L	15.2 km/L (2017年度実績の1%改善)
	3) 業務課燃費改善 ガソリン車：1台	業務課	—	6.9 km/L	7.0 km/L	7.4 km/L	車両抹消のため 計画外
	4) 工務課燃費改善 ガソリン車：7台 ディーゼル車：1台	工務課	7.5 km/L	6.8 km/L	6.9 km/L	6.2 km/L	6.9 km/L (2016年度実績の2%改善)
	5) 技術課燃費改善 ガソリン車：6台	技術課	—	9.5 km/L	9.6 km/L	8.7 km/L	9.7 km/L (2016年度実績の2%改善)
	6) 営業課燃費改善 ガソリン車：6台	営業課	10.6 km/L	10.4 km/L	10.5 km/L	10.3 km/L	10.6 km/L (2016年度実績の2%改善)
2-2. 産業廃棄物の低減							
1) 廃液から塩化銀の回収	技術課	6.28 kg/年	7.5 kg/年	12.0 kg/年	9.2 kg/年	8.1 kg/年 (2017年度末見直し)	

次頁に続く

表8 新中期環境目標（2017年度末見直し）

前頁から続く

環境方針	環境目標						
	内容	担当部署	2015年度実績(基準年度)	2016年度実績	2017年度目標	2017年度実績	2018年度目標(中長期目標年度)
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善	2) 分析サンプルをリサイクルのために返却	技術課	ドラム缶にして17本	ドラム缶にして15本	ドラム缶にして17本	ドラム缶にして13本	ドラム缶にして17本
	3) 硫安のリサイクル	業務課	8,800 t	8,300 t	8,500t	8,500t	8,500 t
	4) ドラム缶損傷ゼロ	業務課	0件	1件	3件以下	0件	3件以下
	5) フレキシブルホースの使用本数削減	業務課	4本	0本	3本以下	0本	3本以下
	2-3. 水資源投入量削減*2	全社	4,626 m <sup>3</sup>	5,043 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>	5,482 m <sup>3</sup>	4,600 m <sup>3</sup>
	2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進(グリーン化率*3の拡大)	総務部	43.2%	48.6%	48%	53.7%	50%
	2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収	全社	78 kg回収	75 kg回収	80kg回収	78kg回収	81 kg回収
3. 環境関連の法律や条令等を遵守	3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認	総務部	9月, 3月の2回実施した	3月実施した	年1回実施する	3月実施した	年1回実施する
	3-2. PRTR法対象物質の適正管理(「化学物質使用量削減」に該当)	営業課	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認する	毎月出入管理表により数量確認した	毎月出入管理表により数量確認する

\*1：二酸化炭素排出量削減(電気使用量削減)の電気使用量は推定使用量とした。

購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.500kg-CO<sub>2</sub>/kWh(2015年度)を使用した。 - 29 -

\*2：水資源投入量削減の水資源使用量は推定使用量を記載

\*3：グリーン化率(%) = グリーン商品購入品目/全購入品目 × 100